

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2023年12月15日

【四半期会計期間】 第46期第3四半期(自 2023年8月1日 至 2023年10月31日)

【会社名】 株式会社トリケミカル研究所

【英訳名】 Tri Chemical Laboratories Inc.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長執行役員 太 附 聖

【本店の所在の場所】 山梨県上野原市上野原8154番地217

【電話番号】 0554-63-6600

【事務連絡者氏名】 執行役員 鈴木 欣 秀

【最寄りの連絡場所】 山梨県上野原市上野原8154番地217

【電話番号】 0554-63-6600

【事務連絡者氏名】 執行役員 鈴木 欣 秀

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第45期 第3四半期 連結累計期間	第46期 第3四半期 連結累計期間	第45期
会計期間		自 2022年2月1日 至 2022年10月31日	自 2023年2月1日 至 2023年10月31日	自 2022年2月1日 至 2023年1月31日
売上高	(千円)	10,139,113	8,215,001	13,803,392
経常利益	(千円)	5,613,802	2,439,365	6,186,508
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	(千円)	4,374,728	1,848,324	4,832,417
四半期包括利益又は包括利益	(千円)	4,679,439	2,035,632	5,205,907
純資産額	(千円)	25,349,730	26,936,785	25,876,060
総資産額	(千円)	31,733,466	31,603,621	32,115,559
1株当たり四半期(当期)純利益	(円)	134.62	56.88	148.70
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益	(円)			
自己資本比率	(%)	79.9	85.2	80.6
営業活動による キャッシュ・フロー	(千円)	5,513,326	3,303,951	6,392,057
投資活動による キャッシュ・フロー	(千円)	1,183,524	1,421,566	1,557,570
財務活動による キャッシュ・フロー	(千円)	1,451,237	1,646,883	1,703,583
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(千円)	10,925,920	11,387,576	11,137,800

回次		第45期 第3四半期 連結会計期間	第46期 第3四半期 連結会計期間
会計期間		自 2022年8月1日 至 2022年10月31日	自 2023年8月1日 至 2023年10月31日
1株当たり四半期純利益	(円)	51.42	12.16

(注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していません。

2 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載していません。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、経営者が連結会社の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に重要な影響を与える可能性があるとして認識している主要なリスクの発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 経営成績の分析

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、賃上げによる所得環境の改善やインバウンド需要の回復等により緩やかな回復の動きを見せている一方、エネルギーや原材料のコスト高や欧米を中心とするインフレの影響等により依然として先行きの見えない状況が続いております。

当社グループの主要な販売先であります半導体業界におきましては、半導体メーカーの在庫調整や設備投資計画の見直しの影響により減産が続いており、その回復は2024年以降になるものと見込まれております。

このような状況下、当社グループといたしましては、半導体業界の需要回復及び次世代プロセスの導入に備えるべく、新規製品製造のための体制構築や、環境負荷の軽減、作業安全性の向上等に対する投資を積極的に取り組んでまいりました。また、Annex棟のクリーンルーム拡張工事等を行うことで、品質管理体制の強化を図ってまいりました。

さらに、中期経営計画における経営方針に基づき、半導体製造用化学化合物の生産・開発能力の向上を推し進め、新工場（南アルプス事業所）の建設準備や、事業継続計画の改善、サステナビリティの追求に関する取り組み等につきましても推進してまいりました。

利益面に関しましては、韓国を中心としたメモリー需要の減速や、原材料価格の高騰、固定費増加等の影響を軽減するため、引き続き全社一丸となつての経費削減やコストの上昇に伴う販売価格改定に取り組むとともに、グループ会社や部門間の連携を深め、一層の収益向上を図ってまいりました。

その結果、売上高は8,215,001千円(前年同期比19.0%減)、営業利益は1,366,038千円(同51.6%減)となり、また、韓国関係会社SK Tri Chem Co., Ltd.に係る持分法による投資利益の計上等により、経常利益は2,439,365千円(同56.5%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は1,848,324千円(同57.7%減)となりました。

なお、当社グループの事業は、半導体等製造用高純度化学化合物事業並びにこれらの付帯業務の単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しております。

(2) 財政状態の分析

(流動資産)

当第3四半期連結会計期間末における流動資産の残高は、前連結会計年度末比229,291千円増加し、19,151,858千円となりました。その主な要因は、受取手形及び売掛金が減少した一方で仕掛品、原材料及び貯蔵品が増加したこと等によるものであります。

(固定資産)

当第3四半期連結会計期間末における固定資産の残高は、前連結会計年度末比741,229千円減少し、12,451,762千円となりました。その主な要因は、設備投資に伴い有形固定資産が増加した一方で関係会社からの配当金入金により投資有価証券が減少したこと等によるものであります。

(流動負債)

当第3四半期連結会計期間末における流動負債の残高は、前連結会計年度末比920,172千円減少し、2,755,497千円となりました。その主な要因は、未払法人税等、買掛金が減少したこと等によるものであります。

(固定負債)

当第3四半期連結会計期間末における固定負債の残高は、前連結会計年度末比652,489千円減少し、1,911,338千円となりました。その主な要因は、長期借入金が増加したこと等によるものであります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産の残高は、前連結会計年度末比1,060,724千円増加し、26,936,785千円となりました。その主な要因は、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上により利益剰余金が増加したこと等によるものであります。

(3) キャッシュ・フローの状況の分析

当第3四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前連結会計年度末に比べ249,776千円増加し、11,387,576千円となりました。

当第3四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は3,303,951千円(前年同期比2,209,375千円の収入の減少)となりました。これは主に、関係会社からの配当金入金による利息及び配当金の受取額2,542,146千円、税金等調整前四半期純利益の計上2,439,365千円、売上債権の減少額1,367,758千円等のプラス要因が、法人税等の支払額1,520,289千円、棚卸資産の増加額1,308,746千円等のマイナス要因を上回ったことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果支出した資金は1,421,566千円(同238,042千円の支出の増加)となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出1,390,875千円等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果支出した資金は1,646,883千円(同195,646千円の支出の増加)となりました。これは主に、配当金の支払額973,562千円、長期借入金の返済による支出599,301千円等によるものであります。

(4) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題について重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(5) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間の研究開発費の総額は489,495千円であります。

3 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等は行われておりません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	108,960,000
計	108,960,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間 末現在発行数(株) (2023年10月31日)	提出日現在 発行数(株) (2023年12月15日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	32,498,640	32,498,640	東京証券取引所 プライム市場	単元株式数 100株
計	32,498,640	32,498,640		

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2023年10月31日		32,498,640		3,278,912		3,179,912

(5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の議決権の状況については、株主名簿の記載内容が確認できず、記載することができませんので、直前の基準日である2023年7月31日の株主名簿により記載しております。

【発行済株式】

2023年7月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 1,700		権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
完全議決権株式(その他)	普通株式 32,474,500	324,745	同上
単元未満株式	普通株式 22,440		同上
発行済株式総数	32,498,640		
総株主の議決権		324,745	

(注)「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式2株が含まれております。

【自己株式等】

2023年7月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株)トリケミカル研究所	山梨県上野原市上野原 8154番地217	1,700		1,700	0.0
計		1,700		1,700	0.0

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。)に基づいて作成しております。

なお、四半期連結財務諸表規則第5条の2第3項により、四半期連結キャッシュ・フロー計算書を作成していません。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(2023年8月1日から2023年10月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(2023年2月1日から2023年10月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年1月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年10月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	11,137,800	11,387,576
受取手形及び売掛金	3,504,831	2,149,371
電子記録債権	1,056,741	1,059,033
商品及び製品	132,660	80,184
仕掛品	1,181,653	2,065,948
原材料及び貯蔵品	1,425,699	1,922,419
その他	483,179	487,324
流動資産合計	18,922,566	19,151,858
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	5,466,764	5,705,857
減価償却累計額	1,783,974	2,010,027
建物及び構築物（純額）	3,682,789	3,695,829
機械装置及び運搬具	3,948,405	4,239,294
減価償却累計額	2,106,975	2,377,640
機械装置及び運搬具（純額）	1,841,429	1,861,653
工具、器具及び備品	2,941,502	3,271,675
減価償却累計額	1,886,835	2,160,658
工具、器具及び備品（純額）	1,054,667	1,111,017
土地	714,933	714,933
その他	1,415,049	2,105,227
減価償却累計額	336,153	396,069
その他（純額）	1,078,896	1,709,158
有形固定資産合計	8,372,717	9,092,592
無形固定資産	134,789	112,826
投資その他の資産		
投資有価証券	4,400,387	2,772,337
その他	285,097	474,006
投資その他の資産合計	4,685,485	3,246,344
固定資産合計	13,192,992	12,451,762
資産合計	32,115,559	31,603,621

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年1月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年10月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,142,053	908,995
1年内返済予定の長期借入金	785,442	730,888
未払法人税等	787,378	4,113
賞与引当金	124,321	198,072
その他	836,475	913,428
流動負債合計	3,675,670	2,755,497
固定負債		
長期借入金	1,913,787	1,369,040
退職給付に係る負債	133,686	137,594
その他	516,354	404,704
固定負債合計	2,563,828	1,911,338
負債合計	6,239,498	4,666,836
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,278,912	3,278,912
資本剰余金	3,179,912	3,179,912
利益剰余金	18,809,102	19,682,518
自己株式	2,025	2,025
株主資本合計	25,265,902	26,139,318
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	5,229	14,323
為替換算調整勘定	623,445	799,035
退職給付に係る調整累計額	18,516	15,892
その他の包括利益累計額合計	610,158	797,466
純資産合計	25,876,060	26,936,785
負債純資産合計	32,115,559	31,603,621

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年2月1日 至 2022年10月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年2月1日 至 2023年10月31日)
売上高	10,139,113	8,215,001
売上原価	5,820,618	5,262,985
売上総利益	4,318,495	2,952,016
販売費及び一般管理費	1,497,353	1,585,977
営業利益	2,821,141	1,366,038
営業外収益		
受取利息	159	309
受取配当金	284	342
持分法による投資利益	2,059,730	809,846
為替差益	622,498	299,062
その他	135,303	6,916
営業外収益合計	2,817,975	1,116,477
営業外費用		
支払利息	21,907	18,187
固定資産除却損	3,032	24,453
その他	375	510
営業外費用合計	25,314	43,150
経常利益	5,613,802	2,439,365
税金等調整前四半期純利益	5,613,802	2,439,365
法人税、住民税及び事業税	1,439,083	749,779
法人税等調整額	200,009	158,739
法人税等合計	1,239,073	591,040
四半期純利益	4,374,728	1,848,324
親会社株主に帰属する四半期純利益	4,374,728	1,848,324

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年2月1日 至 2022年10月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年2月1日 至 2023年10月31日)
四半期純利益	4,374,728	1,848,324
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,066	9,093
為替換算調整勘定	79,462	83,820
退職給付に係る調整額	2,704	2,624
持分法適用会社に対する持分相当額	221,477	91,769
その他の包括利益合計	304,710	187,307
四半期包括利益	4,679,439	2,035,632
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	4,679,439	2,035,632
非支配株主に係る四半期包括利益		

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年2月1日 至 2022年10月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年2月1日 至 2023年10月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	5,613,802	2,439,365
減価償却費	903,212	963,924
賞与引当金の増減額(は減少)	153,420	72,656
受取利息及び受取配当金	443	652
支払利息	21,907	18,187
持分法による投資損益(は益)	2,059,730	809,846
保険差益	6,811	
売上債権の増減額(は増加)	880,347	1,367,758
棚卸資産の増減額(は増加)	615,041	1,308,746
仕入債務の増減額(は減少)	348,782	250,435
未払又は未収消費税等の増減額	99,962	10,303
未払金の増減額(は減少)	11,169	21,710
その他の流動資産の増減額(は増加)	3,829	20,793
その他の流動負債の増減額(は減少)	11,793	5,822
その他の固定負債の増減額(は減少)	8,007	3,907
その他	233,453	211,040
小計	3,126,547	2,300,286
利息及び配当金の受取額	3,892,162	2,542,146
利息の支払額	21,918	18,192
法人税等の支払額	1,519,314	1,520,289
法人税等の還付額	1,738	
保険金の受取額	34,111	
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,513,326	3,303,951
投資活動によるキャッシュ・フロー		
投資有価証券の取得による支出	899	899
有形固定資産の取得による支出	1,156,175	1,390,875
無形固定資産の取得による支出	26,449	29,791
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,183,524	1,421,566
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	733,007	599,301
リース債務の返済による支出	68,871	74,019
自己株式の取得による支出	167	
配当金の支払額	649,190	973,562
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,451,237	1,646,883
現金及び現金同等物に係る換算差額	12,859	14,274
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	2,891,425	249,776
現金及び現金同等物の期首残高	8,034,494	11,137,800
現金及び現金同等物の四半期末残高	10,925,920	11,387,576

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

当社グループは、運転資金の効率的な調達を行うことを目的として、取引銀行5行と当座貸越契約を締結しております。当該契約に基づく借入未実行残高等は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2023年1月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年10月31日)
当座貸越極度額	3,000,000千円	3,000,000千円
借入実行残高	〃	〃
差引額	3,000,000千円	3,000,000千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年2月1日 至 2022年10月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年2月1日 至 2023年10月31日)
現金及び預金	10,925,920千円	11,387,576千円
預入期間が3か月を超える定期預金	〃	〃
現金及び現金同等物	10,925,920千円	11,387,576千円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 2022年2月1日 至 2022年10月31日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年4月27日 定時株主総会	普通株式	649,941	20	2022年1月31日	2022年4月28日	利益剰余金

2 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 2023年2月1日 至 2023年10月31日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2023年4月27日 定時株主総会	普通株式	974,908	30	2023年1月31日	2023年4月28日	利益剰余金

2 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社グループの事業は、半導体等製造用高純度化学化合物事業並びにこれらの付帯業務の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

当社グループの事業は、半導体等製造用高純度化学化合物事業並びにこれらの付帯業務の単一セグメントであります。なお、顧客との契約から生じる収益を地域別又は製品用途別に分解した情報は次のとおりであります。

前第3四半期連結累計期間(自2022年2月1日至2022年10月31日)

(地域別)

(単位:千円)

	セグメント名称
	高純度化学化合物事業
日本	2,860,810
台湾	4,166,118
韓国	2,218,309
中国	770,304
その他	123,570
顧客との契約から生じる収益	10,139,113
その他の収益	-
外部顧客への売上高	10,139,113

(注)最終顧客の所在地を基礎としております。

(製品用途別)

(単位:千円)

		セグメント名称
		高純度化学化合物事業
Si 半 導 体 向 け	High-k	4,986,702
	Metal	2,063,304
	Etching	994,252
	その他	1,459,040
その他用途(Si半導体向け以外)		635,813
顧客との契約から生じる収益		10,139,113
その他の収益		-
外部顧客への売上高		10,139,113

(注)最終顧客の製品使用用途を基礎としております。

当第3四半期連結累計期間（自 2023年2月1日 至 2023年10月31日）

（地域別）

（単位：千円）

	セグメント名称
	高純度化学化合物事業
日本	2,712,862
台湾	3,108,404
韓国	1,118,855
中国	1,131,958
その他	142,920
顧客との契約から生じる収益	8,215,001
その他の収益	-
外部顧客への売上高	8,215,001

（注）最終顧客の所在地を基礎としております。

（製品用途別）

（単位：千円）

	セグメント名称	
	高純度化学化合物事業	
Si 半 導 体 向 け	High-k	3,050,774
	Metal	1,783,386
	Etching	1,015,458
	その他	1,466,157
その他用途（Si半導体向け以外）		899,224
顧客との契約から生じる収益		8,215,001
その他の収益		-
外部顧客への売上高		8,215,001

（注）最終顧客の製品使用用途を基礎としております。

（1株当たり情報）

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 （自 2022年2月1日 至 2022年10月31日）	当第3四半期連結累計期間 （自 2023年2月1日 至 2023年10月31日）
1株当たり四半期純利益	134円62銭	56円88銭
（算定上の基礎）		
親会社株主に帰属する四半期純利益(千円)	4,374,728	1,848,324
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益 (千円)	4,374,728	1,848,324
普通株式の期中平均株式数(株)	32,497,036	32,496,938

（注）潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2023年12月15日

株式会社 トリケミカル研究所
取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人
東京事務所

指定有限責任社員 公認会計士 市川 亮 悟
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 唯 根 欣 三
業務執行社員

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社トリケミカル研究所の2023年2月1日から2024年1月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（2023年8月1日から2023年10月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2023年2月1日から2023年10月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社トリケミカル研究所及び連結子会社の2023年10月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。

- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。

- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記の四半期レビュー報告書の原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。